

サーマルリサイクルの影響

環境負荷への影響

清掃工場を管理・運営する東京二十三区清掃一部事務組合では、以下のとおり、サーマルリサイクルによる温室効果ガスの環境への影響を試算している。

- (1) 廃プラスチックを焼却すると、温室効果ガスである二酸化炭素が発生する。
- (2) 食品残さ等が多く付着している廃プラスチックを埋め立てないことにより、食品残さの腐敗等で発生する温室効果ガス(メタンガス)の発生が抑制される。
- (3) 廃プラスチックからのエネルギー回収により発電量が増加することから、電力会社での温室効果ガスの発生も抑制される。

【廃プラスチックサーマルが本格実施される平成21年度と実施前の平成17年度の比較】

(1) 廃プラスチック焼却による 温室効果ガスの増加	約36.7万トン増加	} 約19.7万トン増加 (1) - (2) - (3) = +19.7万トン
(2) 最終処分場から発生する温室 効果ガス(メタンガス)の削減	約8.2万トン削減	
(3) 電力会社での温室効果ガス 発生抑制効果	約8.8万トン抑制	

※ 温室効果ガスは二酸化炭素に換算した量で表記している。

こうしたことに加えて、現在、湾岸地域にある不燃ごみ処理施設で処理されている廃プラスチックが清掃工場で処理されることに伴い、ごみの運搬距離の短縮、車両台数の減少などが可能となり、温室効果ガス発生量の削減が期待できる。

【出典】サーマルリサイクルの影響と効果(東京二十三区清掃一部事務組合)